



脇本海岸 渚だより

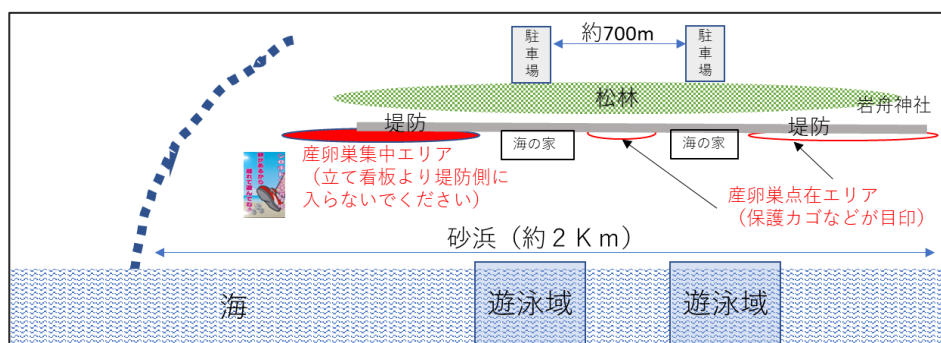
NPO法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
第2号（期間：2022年4～6月）

（4月）脇本海岸の景観を護る法整備を市へ要求

市の企画調整課へ景観条例/計画を策定し脇本海岸を景観地区に指定するよう依頼しました。平成16年(2004年)に国が景観法を定めると、阿久根市近隣の市町はその3、4年後に景観条例を制定し、その条例と計画に基づき、今日まで10年以上にわたり景観作りを進めてきました。例えば、長島町の統一的な美しい沿道花壇や石垣、出水市の武家屋敷やツルの渡来地はすべて景観条例/計画に沿って整備されているようです。一方、阿久根市だけは景観条例/計画を定めることもなく現在に至っているため、海岸堤防の落書きさえ市は消さないという残念な状況です（前号で報告）。脇本海岸だけでなく市内の美しい景観を守るためには景観条例/計画の制定が必要と考えます。皆様のご理解と強い支援をお願い致します。

（3～6月）シロチドリの産卵と孵化

今年は過去最低の17羽しか確認できていませんが3月24日に最初の産卵が確認されました。4月には産卵が本格化し累計8か所で22個の産卵がありましたが、1羽が孵化したのみで、他は天敵（カラス、イタチ、猫など）により消失しました。5月は7か所で17個の産卵でしたが、全て孵化前に消失もしくは親鳥の抱卵放棄のため孵化ゼロでした。親鳥が卵を抱かなくなったのは巣の近くでの工事音や人の往来など環境が変化したためと考えられます。6月末現在、3か所で7個しか残っていません。施策として、人の立ち入りを制限する保護ロープや看板、カラスなどから卵を守る保護カゴなどを試しましたがうまくいっていません。今季の孵化は絶望的な上に、来季へ向けては、巣が集中するエリアに「テントを張るので営巣場所をどけよ」という絶滅危惧種をさらに危機に陥れる事業者が現れており、頭を悩ませています。絶滅危惧種を護るため、今こそ地域の人たちの大きな声が必要です。



巣の保護カゴ

（5月～6月）脇本小学校のウミガメ講座・保護活動への支援

ウミガメを守ろうと、脇本小学校の4～6生の27人が保護ポスターを書いてくれました。脇小では3年生になるとウミガメ講座に参加するため、ウミガメとその保護に必要な知識を持っており、いずれのポスターも素晴らしいものになりました。27枚中6枚はウミガメの産卵場所に注意看板として立てることにし、残りの21枚は海岸の掲示板に1カ月ほど掲載されました。



海岸掲示板のポスター



産卵場所の保護看板



新聞社の取材を受けた小学生

6月29日に協小3年生全員（39名）に対し恒例のウミガメ教室を開催しました。今回は鹿児島大学ウミガメ研究会より借りた大きなアカウミガメの剥製が登場し、子供たちは大興奮でした。たくさん質問し、たくさんメモを取っていました。ウミガメの剥製に子供たちが触って喜ぶ様子が南日本新聞の7月3日号に掲載されました。（右の写真は大川内理事長の講義に真剣に耳を傾ける生徒たち）



（6月）待望のウミガメ産卵始まる

6月3日早朝、今年最初の上陸と産卵の確認以来、6月末時点で18回上陸、うち8カ所の産卵を確認しました。昨年は1回しか上陸産卵しなかっただけに今年は期待できそうです。しかし残念なことも発生しています。産卵が予想された日の夜10時過ぎに、心無い人たちにより砂浜で花火が行われ、海岸には打上花火約200本の残骸がありました。条例違反でもある花火とゴミの放置は絶対に止めて、カメが安心して上陸できる海岸にしてほしいと、FM鹿児島が協本海岸情報の放送の中でも取り上げて注意喚起してくれました。

（6月）ウミガメ講演会開催（6/11）

鹿児島大学ウミガメ研究会による講演会を開催し、NPO会員、市役所、地域から20名の出席がありウミガメの生態や保護活動で注意すべきことなどを学びました。剥製や調査道具も展示され貴重な情報を得ることができました。

8名の学生が分担して2時間の講演会を見事なチームワークで実施し、講演会後はNPOと研究会の座談会で交流を深めました。



ウミガメの調査道具



アカウミガメの剥製

今回の講演内容は海岸を利用、管理、開発するすべての人に知ってほしい情報であり、今後、様々な形で伝えていくことにします。